三教指歸

中之

編部

国貞画
九編上
仙果作
什題曲多図

寶
むつさぶ
九編
仙果作
国貞画
喜鶴堂藏梓
國綱画

根源寓言

第九編上冊

笠亭仙果作

梅蝶楼国貞画

芝三島街 佐埜屋利板

国会図書館

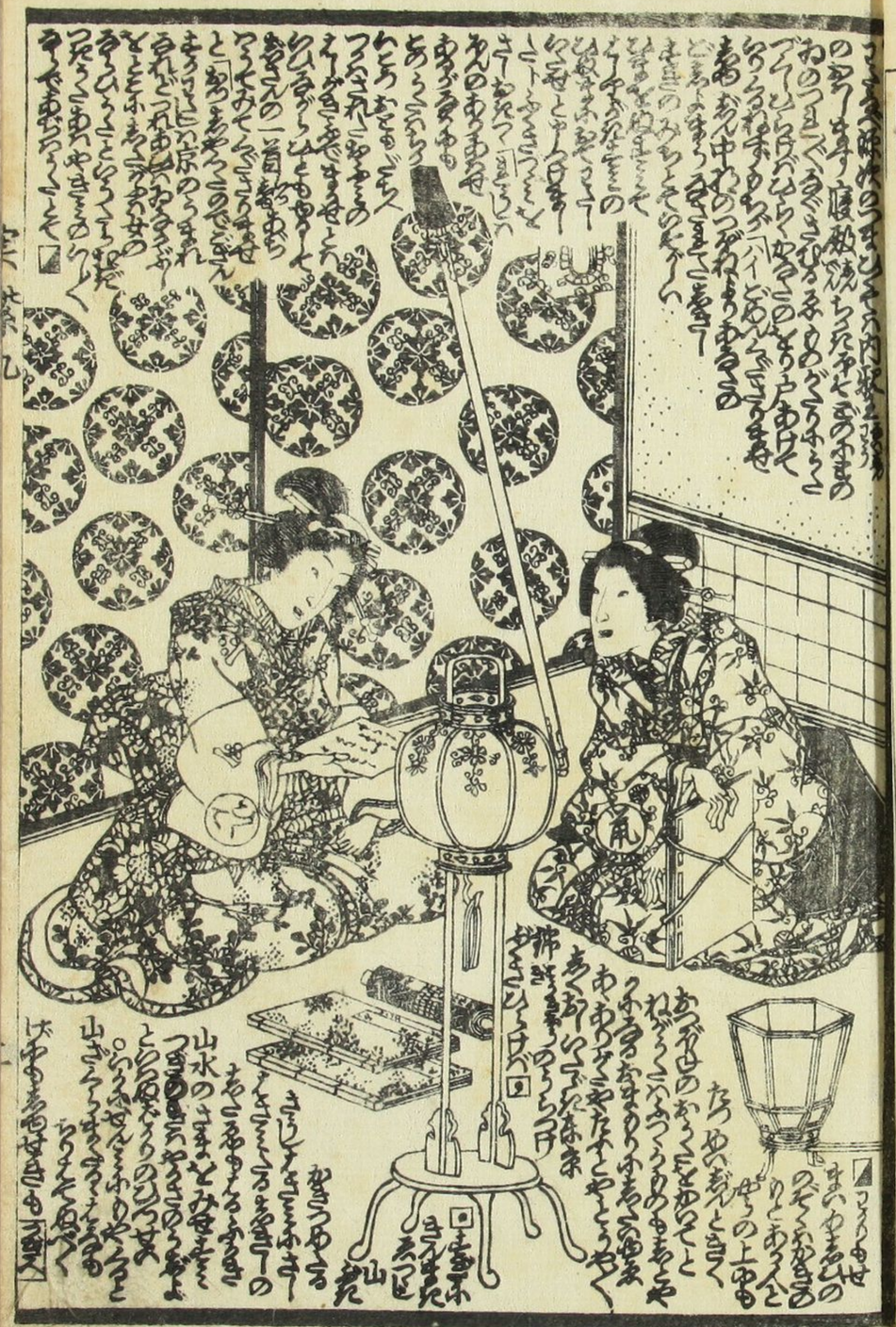
紫式部
戯れ
童朋輩
と見る

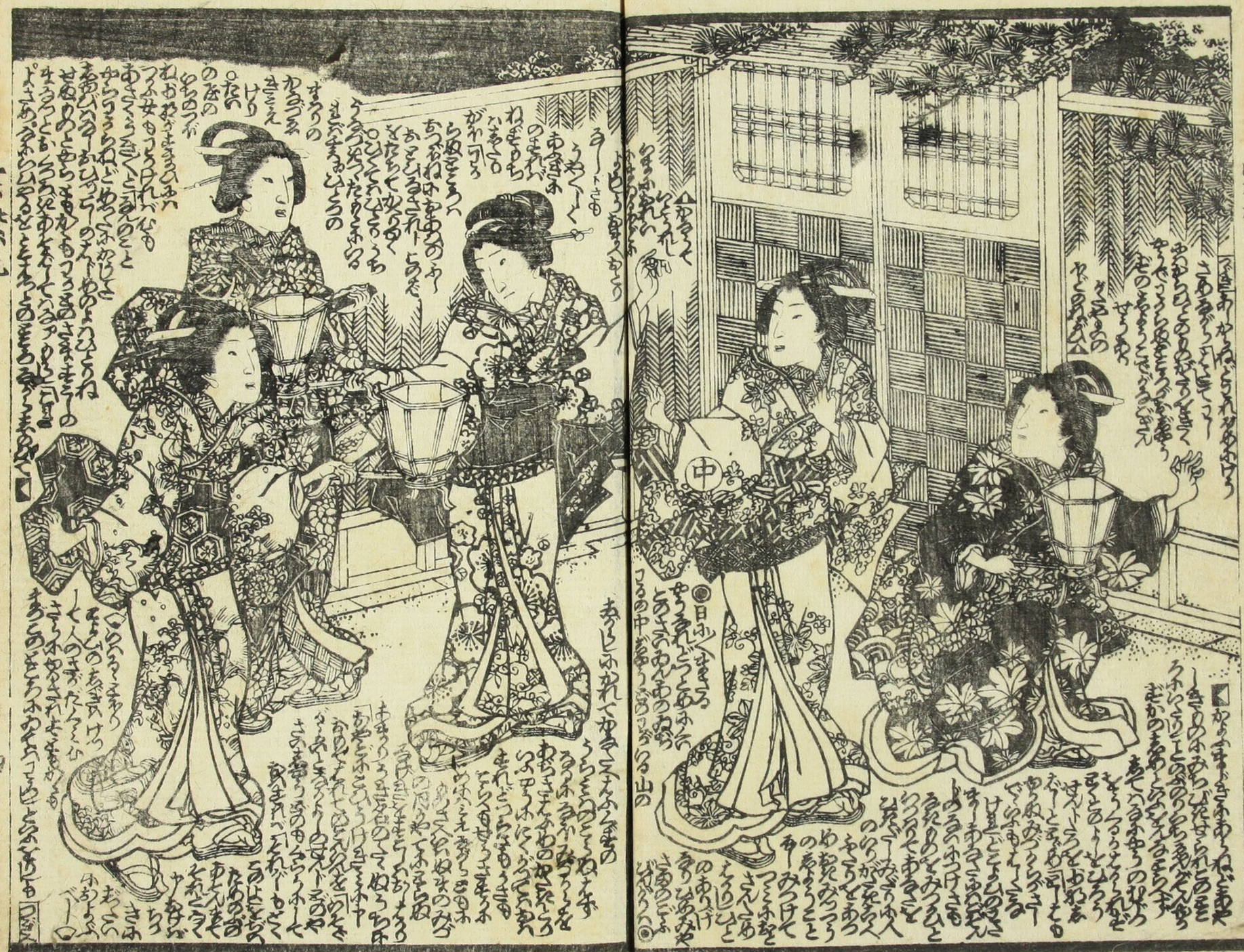
惟規斎院の
ちつくとろう
伊吉へ
なむく

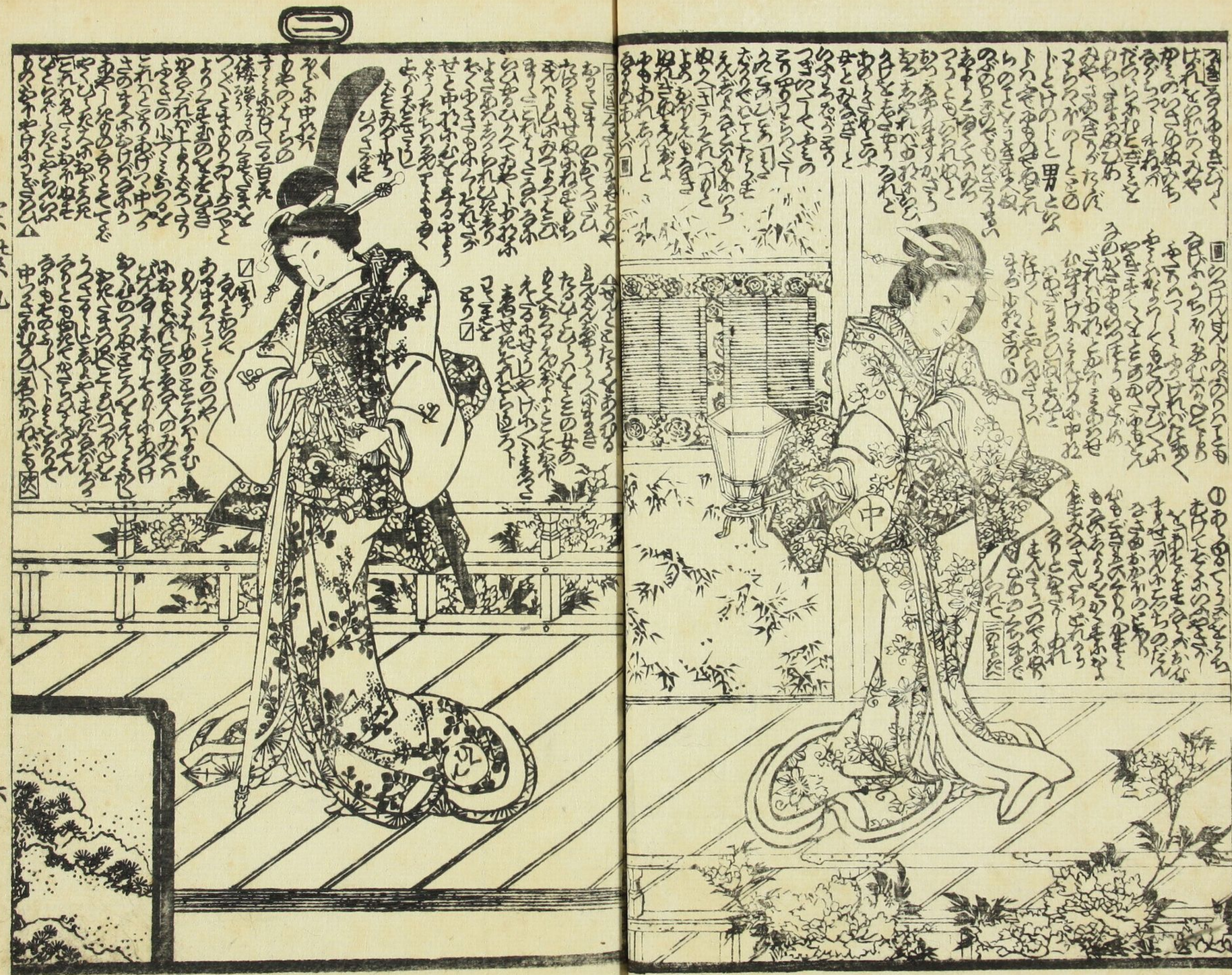
丙辰履端
新刊

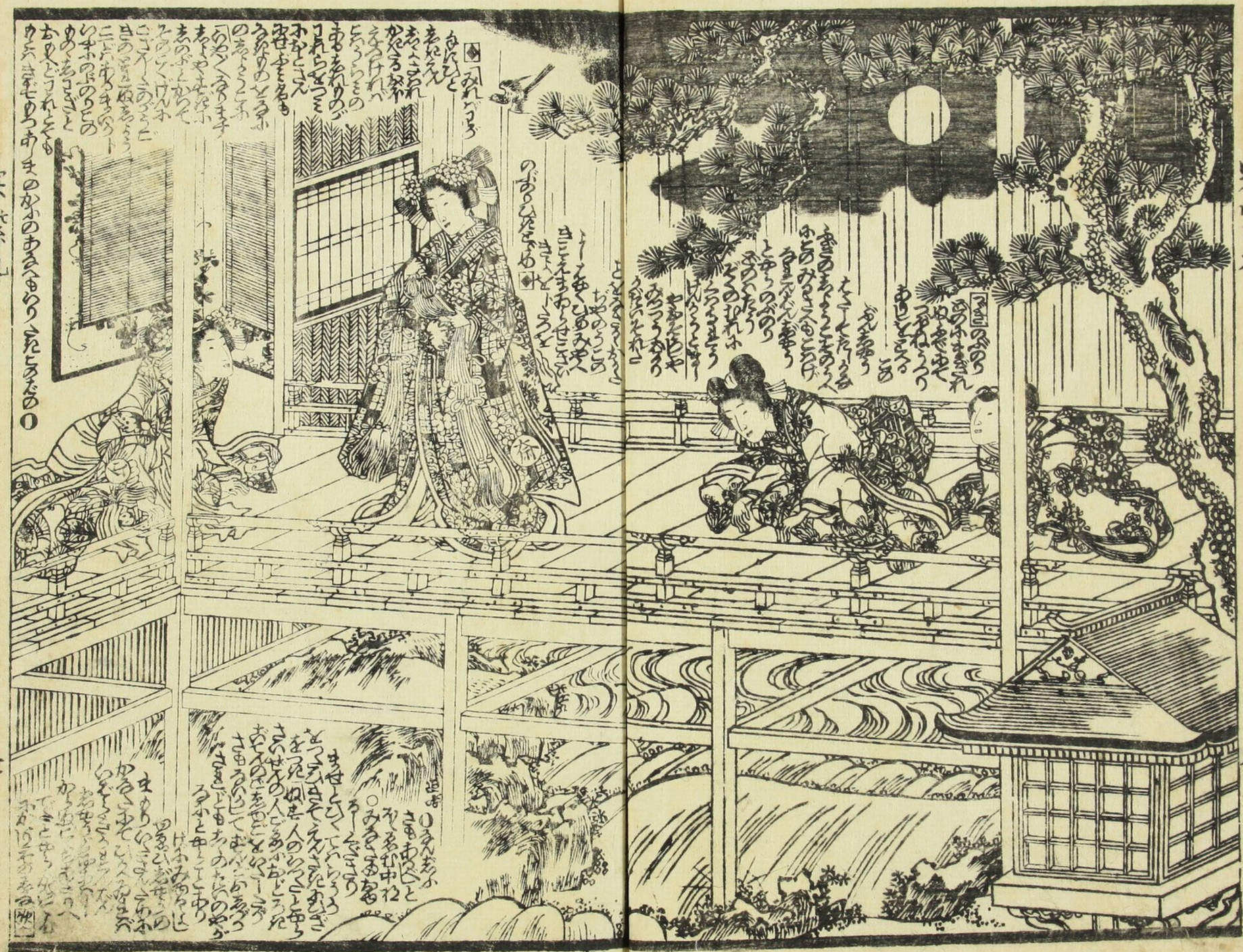
香炉の外宮木。如意孔雀も亦持女紀ふ我らる尚四の名
妓史ちふ如ち拙婦ゆへあり解蟹島ハ地名家姉とちるハ五吾
所為史賓客と迎るる面昔ハ必かくゆべうて海賊丸の留
い拾枝抄楽器の部ふ其名史れど斎院の所ね
ゆも非もち換ふ天の荒くる事九織の衣と云る
も斎院紀ふ拠惟規ゑ永九殿の歌よあるハ
七編の序にしるるめ史ハ部て根也
苔生夢延て世ふ壮も踏ふがてく
たりふける たゞ一中ねのいふせんのうえ
丑義ふ条にあり

笠亭仙果作
梅蝶楼國貞画






中



梅
松
竹

諸合藥

江戸大通宇田川町西側中程

紀伊國屋九兵衛

御藥種丸散丹圓諸合藥精製吟味別而念入申候

其外奇藥最上極品貯且定價廉直也

虛火と云つの虛血とおきめて
手地夫丸　虛火と云つの虛血とおきめて
こまやかふまる良系ふ

牛黃丸　大人小兒驚搐ろく
急症を救ふ良系

家傳救命丸　大人小兒万病急症を救ふ丸藥也

獨按

中きつけとくけ
口中をしめしくい
ろつをとさまをす
ふ悪きをとひさる
ひめびと
ひ
ひ
ひ

中暑和中飲　霍乱暑あ[illegible]

加正散　氏形蒜四葉の[illegible]

清兵衛　[illegible]

一粒丸　大人小児ちゃ[illegible]

御白伏　[illegible]

即妙丸　[illegible]

御薫物　煉香　不浄除清丁　[illegible]

雷除神丹　[illegible]

旅行懐中御用意　[illegible]

御香木　[illegible]

匂玉

塗香

安政三年丙辰孟春新刊目録

紀源實朝

自九編至十四編　笠亭仙果作
當辰青葉兄　歌川國貞画

九編　惟規少将再度中将ガ新計ヲ酷ク曳手妙ヲ其寃ヲ救フ齋院御禊の行啓ヲ天変有正名鼠もち擒られて中将鳴高罪ヲ伏する惟規住吉へ御使ヲ立三島江口ヲ遊女香炉ヲ値遇ク室の笛ヲ失ひ箸居の事　十編　同人密ヲ北越へ出奔　○紫式部めぐりあひてみしやそれともわかぬ歌ヒ申来　○宣孝丹生使の時亂村の振舞　籍避ク六田の茅屋ヲ旧熟の婦と二子ヲ再會帰洛の後ヲ宇佐へ赴ク　十一編　六田の梭手児嫉妬ヨリ野洲子病ム身ヲ分ル鳥児姉の仇ヲ復さんとす紫式部一女子を産む後大貳三位賢子是なり此巻法皇ヲ[illegible]の話をかく書収む　十二編　惟規北国流浪あられること多く紫式部寡婦ヲ[illegible]上東門院ヲ宮仕の顛末　十三四編　式部父女の忠貞ヲ[illegible]記ク御堂殿小野宮殿の栄花と賢才をもて出て花あり實ほり御高評を希ふ

花兄爭陸奥名所　初編　二編　三編

同作國芳画

芝神明前　喜鶴堂敬白

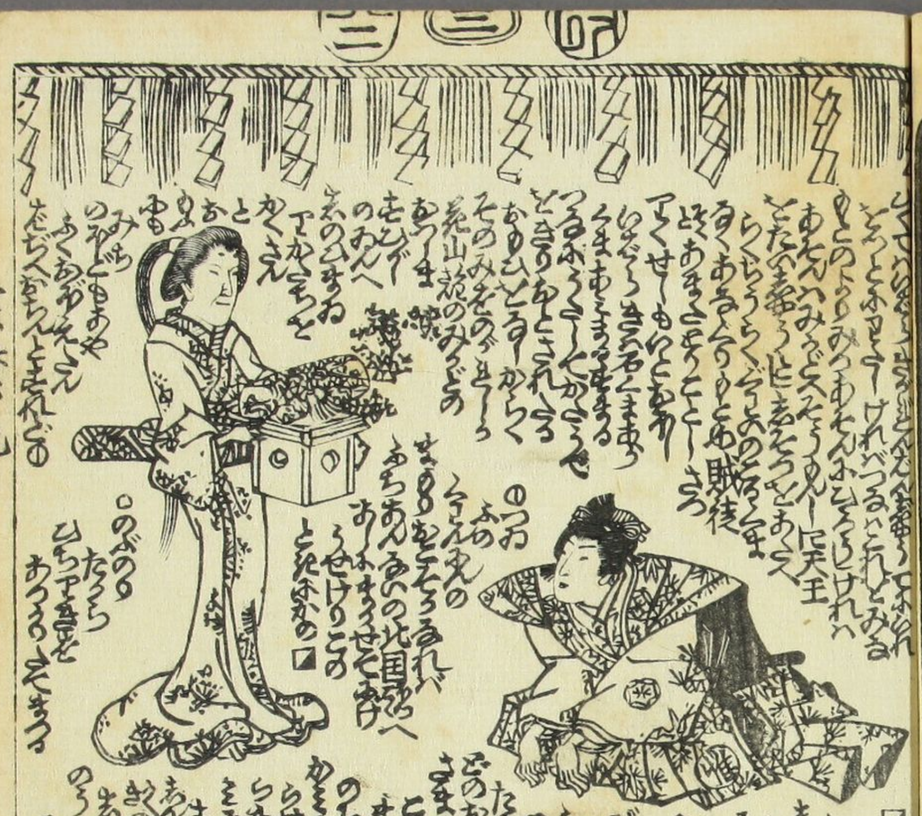
根源むさぶり
實
九編下
喜鶴堂
發行

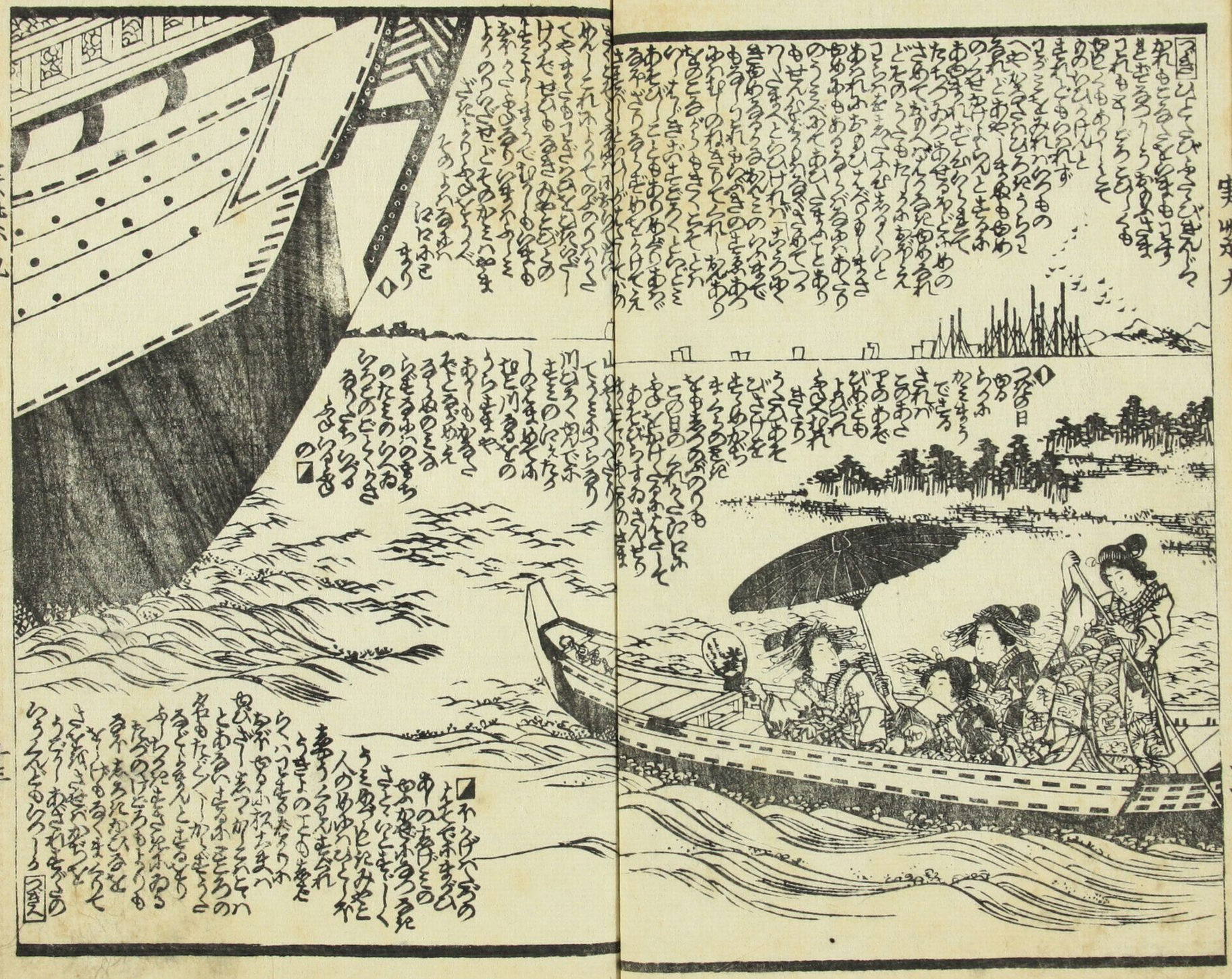
實盛九編下冊

本文三島江口倶傀の名ハ
そもくよりとをろのり

仙果作
国貞画
佐野喜
彫刻

東京都立中央図書館 加賀文庫





宮
香
如
田
孔
松
性

惟
香

安政三丙辰年孟春新鐫目録

娘庭訓金鶏　山東庵京山作　初編　二編　三編　梅蝶楼國貞画

お七吉三松梅竹取物語　樂亭西馬作　初編　二編　歌川國貞画

おくみ琴聲美人録　同　十三編　十四編　十五編　一壽齋芳員画

同　關太郎鈴鹿故語　五編　大尾編　一壽齋芳員画

夢想兵衛勘四郎枕　笠亭仙果作　四編　五編　一勇齋國芳画

前太平記　西馬譯文　衣伊達奥州合戰　續編　一壽齋芳員画

新増補西國奇談　爲永春水作　初編　二編　三編　歌川國貞画

東都地本繪草紙團扇問屋　芝神明前三島町角　佐野屋喜兵衛板

十編上
仁果作
國貞画

美武良前

十編上

仙果作

國貞画

佐野屋壽梓

國綱文庫

猫ハ名るに虎ことのそー風ことのそー障子をとのそー乱ことのそー終ハ本の猫ハ帰ハ絡の袴丹後平の外套流行ハ欲ーきやうるとも忽廃ハ朝市ハも見ぎさんれど草造紙の豪次ハ好男子のこまるめハ定りて美人も能撃るる大力るるねハ面ハ光見立のみきめるれど女清玄とる女自来也とる男を女ハ轉て用ふハ奇けれど理ハ背けバ必困ることあり日待の晩の苗字飯さえ毎日にるてハ於尋常の糒糅飯の白きハ如ぎ姫れ前ハらもく温柔ことそもまほーけれ女四天王の荒事ハ傾城水滸の仙里語ハ古流去と問屋の意見ハ言ハ即れ見物のおさーづるりと低頭平身非矣非矣と陪罪稲荷さの九尾きぐしの渡婦ハ新刻書房にあげぎき當店ハ彼の雑猫の中に戯面女ても猛来のあの和を先試ハ冊十編平穏れば又一際前くよりも良ハけまど女で作てもあくるき女論語女孝経を讀よる气悟も出まどくや

安政四年巳 太簇吉祥日

笠亭仙果

松崎
右衛門佐藤原宣孝
顕文紗の
地文
新ふ注文
まる所
四年ばかり以往
あつらへ
本文なり

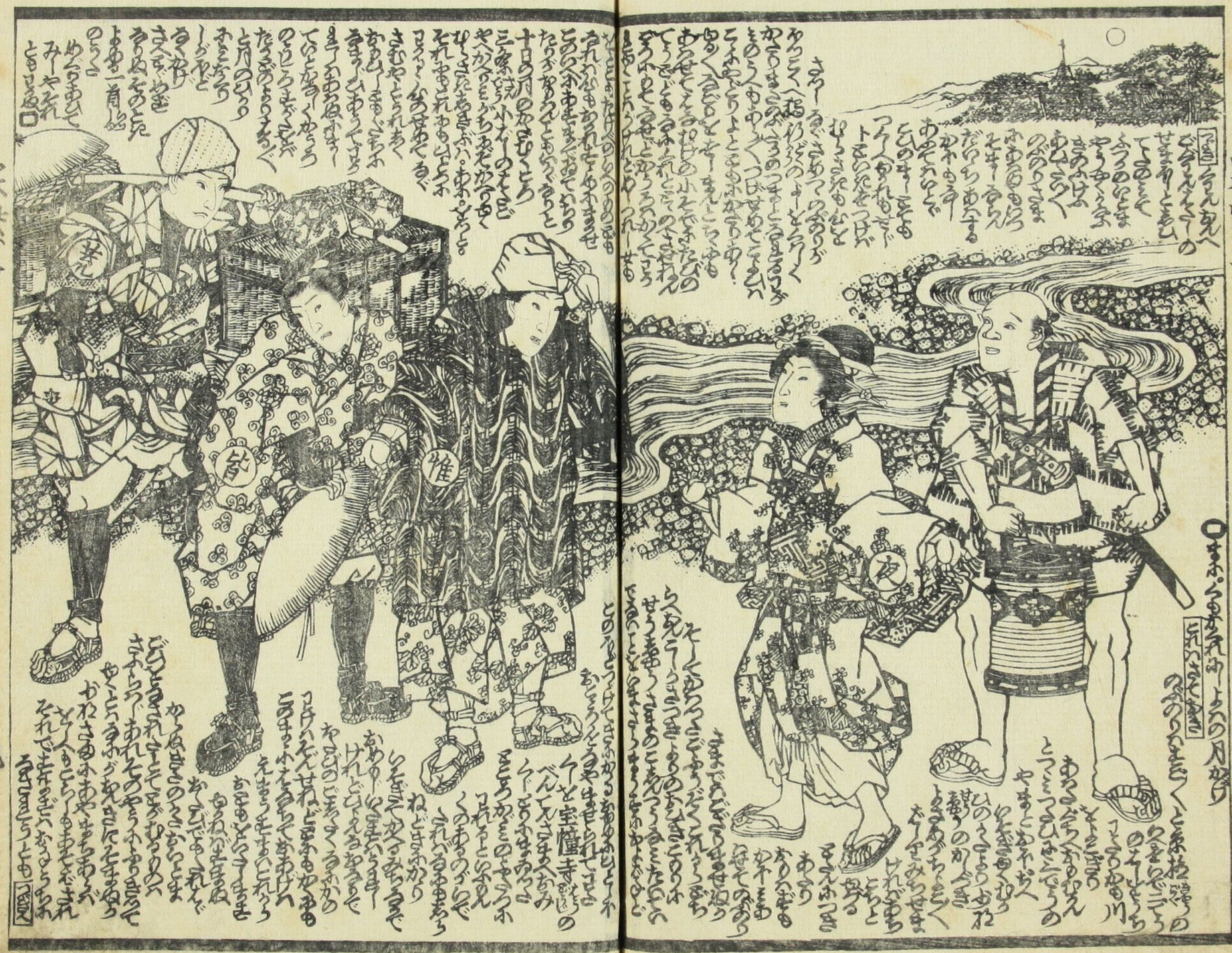
處女
桜手子

機織女
倭文姫

淡海刺史顕獣
季女 鳴児

花園邑秋錦院
住僧 壽祖
賢婦
紅藍
吏部

香
塵


○まぶらるまかれ山よりの月かげ
のぞのりさきくと糸拉ぎの
のをらぎごてう
のたりとちち
こてうかも川
そとこぎ
あるるどちくなるむえん
とつこつるひさこでうの
やまとあれぢく
ひのくとよりかれ
春のかごき
とるあぢちとく
たーさみちせま
けれがあち
とちと
そんかつき
あるり
なりかぎも
かれまあ
なてのあり
さまでたどちちせ
そーくれちつこどちうだくこれうぢち
らくをてーうさつきとりのたきこりは
せうまるうさまのこれつうこたしに
でるのこしをまさーうまるこちかはどし
とのりとつけてさかるなりかもとれ
おこちろとうやまきしられてこと
イを宝憧寺のの
べんてんさまへなみ
イーどうかもあろこ
そこちかこのやうか
コれうとしかれ
くのあるのがらで
これいるかもあちう
ねどまかり
いこまそかるみちうで
あるりーいまいうまー
けれどひえるあうで
やうどのごまくうかの
コけいんでんせねどまかもかるも
このまこかまうちてなあけい
えまうもまのこれうう
おこもとうーまま
ゆれいままる
やうでもれで
やんまきのくまかうとま
どうとうまれーとてどかうりのい
さかーらうーあれそのやうかちりきりて
やくとうまかうあれきにそまるう
かわさるかまあやまちあーば
そーくもこちーのまとぎまれ
それでまたのぎいなりとちれ
ままちとも
イ
武
作
孝

椿々逸士仙果著　梅蝶楼國貞畫

安政四年丁巳孟春新刊目録

紀源實朝

自九編至十四編　笠亭仙果作
當辰正月發兌　歌川國貞画

九編　惟規少將再度中將の計ふ陷しを曳手妙ふ其寛と救ふの齋院御禊の行啓ふ天変有正名鼠ふも擒られて中將鳴高罪ふ伏すう惟規住吉へ御使ふ立三島江口ふ遊女香炉ふ値遇し宝の笛を失ふ篭居の事　十編　同人
密ふ北越へ出奔ふ紫式部あひてふ歌ふ東へ宣孝丹生使の時亂村の狼藉避く六田の茅屋ふ旧熟の婦と一子ふ再會帰洛の後ふ宇佐へ赴く　十一編　六田の校手児嫉妬ふより野洲子病て身ふかる鳴児姉の仇を復さんとう紫式部一女子を産む後大貳三位賢子是なり此巻法皇ふつゐの話をかく書収む　十二編　惟規北国流浪ふ別れるを多く紫式部寡婦ふ帰り上東門院ふ宮仕の顛末　十三四編　式部人女の忠貞ふ記し御堂殿小野宮殿の栄花と賢才をほめ出る花あり實ふ御高評を希ふ

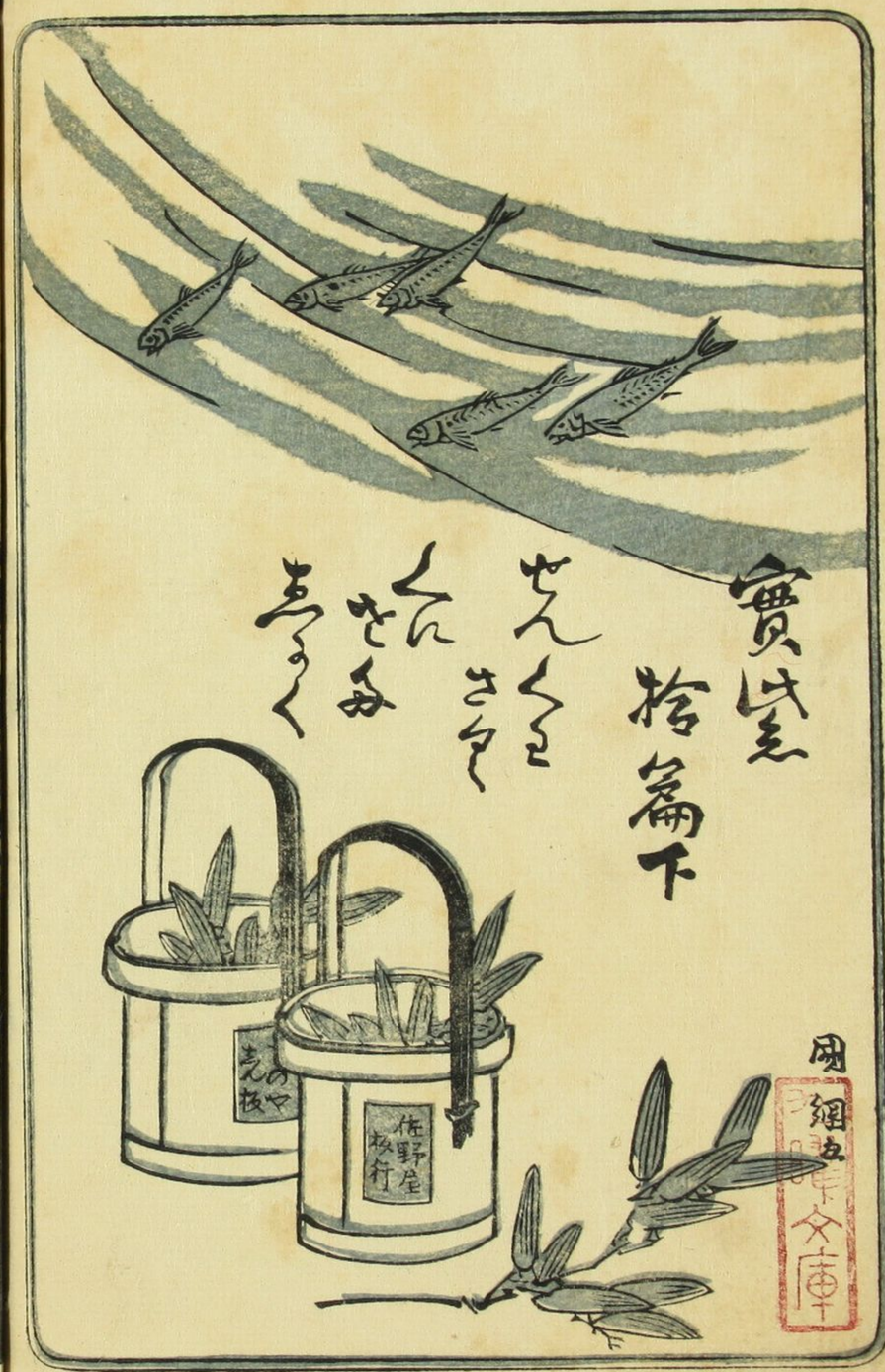
花兄弟陸奥名所　初編　二編　三編

同作國芳画　芝神明前　喜鶴堂敬白

根源雲雲

十編下

作楚屋彩鐫



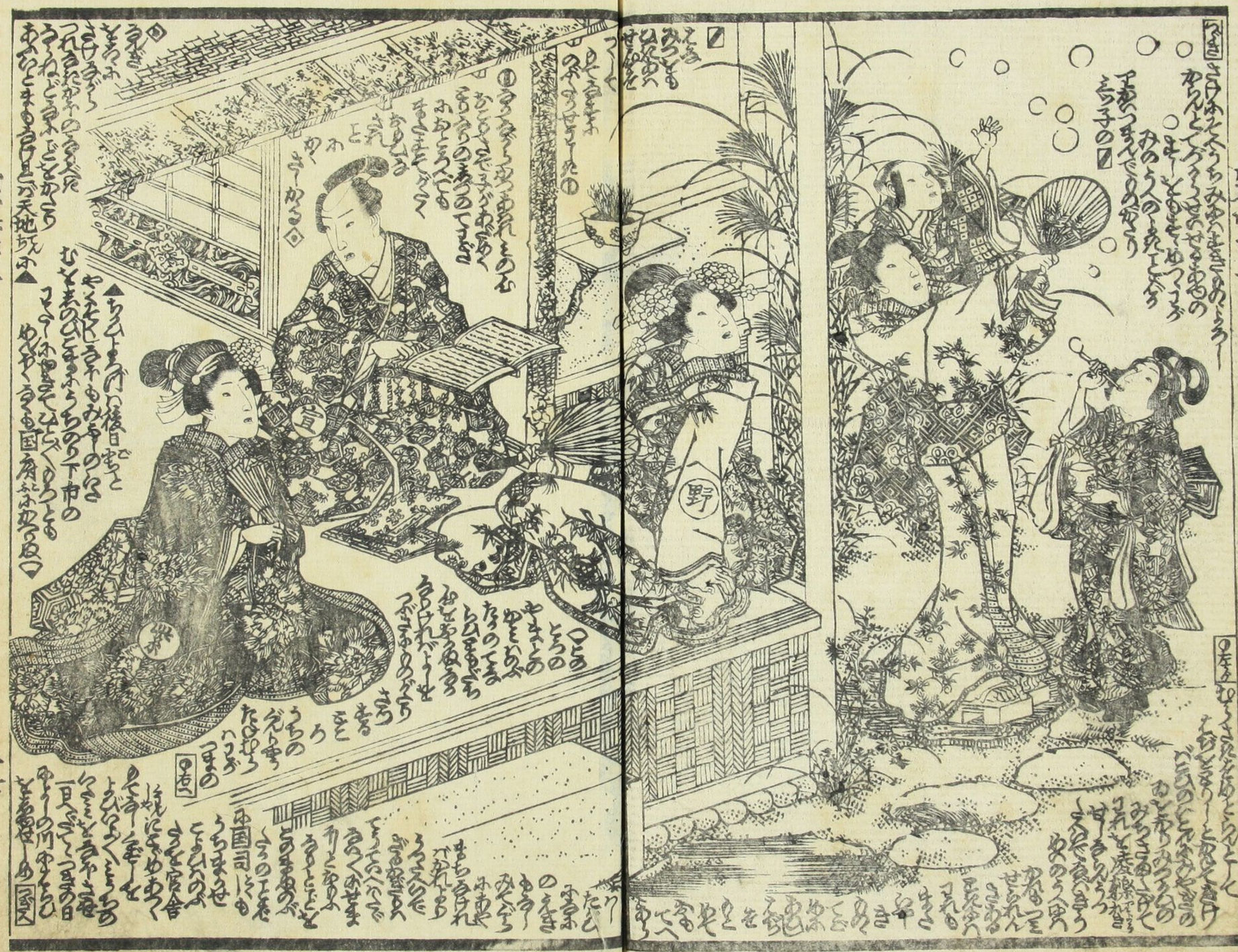
實説
拾篇下

せんくるさ
さ々く
くんさ
ふみ
まつく

國會圖書館藏

八省院官材

宣孝丹生使のとゝの官
左衛門尉宣孝
鉤親鮎



北野の紅葉やまろ

諸合藥

江戸大通宇田川町西側中程

紀伊國屋九兵衛

御藥種丸散丹圓諸合藥精製吟味別而念入申候

其外奇藥最上極品貯且定價廉直也

虚火牛黄丸　虚火と云う虚血をおきうて急症を救ふ良藥なり

家傳救命丸　大人小児万病急症を救ふ良藥也

猿枝　持きつけとくけ　口中をしめし口臭よくなつさをしひめひを野

中暑和中飲　霍乱暑あ[illegible]

加正散　[illegible]

清魚丸　[illegible]

一粒丸　大人小児[illegible]

御白餅　[illegible]

御黄物　煙香　不浄除清丁　[illegible]

香除神丹　[illegible]

旅行懐中御用意[illegible]

匂玉　御香木　[illegible]

塗香

安政四丁巳年孟春新鐫目録

娘庭訓金鶏　山東庵京山作　初編二編三編　梅蝶楼國貞画	同　総次郎琴聲美人録　十四編十五編十六編　立川齋國郷画	夢想兵衛勘畧枕　五編　笠亭仙果作　大尾　一勇齋國芳画	新増補西國奇談　爲永春水作　三編四編五編　歌川國貞画
吉三七松梅竹取物語　樂亭西馬作　初編二編　歌川國貞画	根源實紫　十一編十二編　笠亭仙果作　歌川國貞画	花兄弟陸奥名所　初編二編　作　同　同　画	東都地本繪草紙團扇問屋　芝神明前三島町角　佐野屋喜兵衛板

みちさね十編

仙果作　国貞画

嵩雷堂梓

以下全て

白紙

春視帖